

# 「頑張る」 「地元企業」

## 新機種導入ではずみ

(株)石高精工(長岡市中之島)

石高精工(長岡市中之島)石高裕崇代表取締役は、直径φ200以下の小物精密NC旋盤加工と複合加工を得意とする。

同社は、1981年に石高源次郎さん(現社長の実父)が「石高鉄工所」として操業を始めた。当初は主に旋盤加工による工作機械部品を製作していた。1988年に有限会社化。2000年には株式会社へ組織変更した。

現社長の石高裕崇(ゆたか)さん(51)は源次郎さんの長男である。

中学生の頃から機械に興味を持つ

裕崇さんは、職人気質の父源次郎さんを見て育った。おかげで子どもの頃から機械やものづくりに興味を持つ。学校の行事などで工場見学に行ったりすると、「紙の絵(図面)からものが



(株)石高精工外観

できるということに面白さを感じていた」とい

う。中学校を卒業すると、県立長岡工業高校へ進んだ。

その頃に源次郎さんが独立する。源次郎さんにとっては大きな決断だったが、家庭的にも大きな変化だった。裕崇さんにとっても大きな環境変化

である。そのようなことが影響したのであろうか、高校卒業後は家業を継ぐのか、あるいは大学へ進学すべきなのか、

「特にやりたいこともないし、漠然と大学に行くかな」と思っていたという。

そうした裕崇さんに対して、源次郎さんは長野の機械メーカー(現シンチズンマシナリーミヤノ)に就職させる。「ゆ

くゆくは私に会社を継がせるつもりだったのでしようね」と裕崇さんは

当時を振り返る。2年間の長野での修業を終えて、20歳のときに同社に入社した。機械を売る側から機械を使って

ものを創る立場への大転換だった。全く違う仕事のため慣れるまでは大変だったという。

「雇われているときは分からないことがあつたら上司や先輩に聞ける。うちに戻ったら全部自分でやっていかなければならなかった」と裕崇さんは話す。それでも機械メーカー時代培った

知識や経験は、現在の仕事に限りなく役立っている。

女性も活躍している会社

裕崇さんによると同社は「女性に助けられている」という。従業員9人のうち5人が女性で製

造、検査、梱包まで担当する。いずれも既婚者である。「部品加工は簡単なようで意外と難しい。手先の器用さ不器用さも大切だが最終的にはやる気が違う。やはり家庭

を持つている方は違う」と裕崇さんは社員を信頼する。

家族の支えも大きい。役員でもある妻幸枝(さちえ)さんは会社の経理を担当する。長男の裕基(ひろき)さん(21)は現在、千葉工業大学社会学部経営情報科学科で、ものづくりだけでなく経営の勉強もしている。将来は会社を継ぐつもりである。「自分が教えられることを



代表取締役の石高裕崇さん

たくさん学んできてほしい」と期待は大きい。

次男の将博(まさひろ)さん(18)は広く海外に目を向けている。留学に向けて大学で語学を習得中である。

設備投資でさらさら事業を充実

同社は政府が募集していた「平成25年度中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」の採択先に選ばれた。同事業の助成金で

MG森精機製の次世代型高精度CNC旋盤「NLX2000」を導入。多品種小ロット品の受注拡大を狙っている。

裕崇さんは「今度導入する機械は操作盤がタッチパネルになっているので」と興奮した面持ちで話してくれた。

今年の9月、見附市倫理法人会の副会長にも就任した裕崇さんは、最近の若者の就職事情に対しても心を痛めている。大手企業への就職を目指しても就職できずに浪人する

の様子心配である。「大きい会社でなくても、もつと機械加工の現場に入ってほしい。製造業は、紙の絵(図面)からものができるとい

面白さがある」と語る。「中央に出て行くのもいいのだが、いつかは地元に戻ってきて地域社会に貢献して欲しい。長岡の製造業がもっと盛り上がるように」と考える。

若者たちに期待

裕崇さんは「ものづくりに関わると幅が広い」という。機械関係は決して衰退産業ではない。需要の幅は広く、掘り起こしも幅広い。もつと若い人に興味を持ってもらいたい」と若者たちに期待を寄せ、エールを送る。

特別寄稿 20

# 『税に関する 高校生の作文』 受賞作品

新潟県租税教育  
推進協議会長賞 優秀

## 「一番身近な税金」

新潟県立長岡高等学校  
2年 小林 芽生

国税庁では毎年、次世代を担う高校生を対象に税に対する関心を深めてもらうため学習や経験を通じた「税に関する作文」を募集し表彰している。

本稿では、長岡税務署管内で受賞した作品を随時紹介する。

自分が受けている高等学校の授業が無償であることを意識し始めたのは最近だ。それだけではない、いま使っ

ている机も椅子も、黒板もロッカーもみんな、高校に無償で提供されているものである。

私は公立高校に通っている。学校はとても好きだ。なにより勉強することが楽しい。興味のあることを授業で習ったり自分で調べたりして、新しい知識として頭に入れるのが楽しい。友達と分からないところを教え合ったり、話し合ったりすることも多い。勉強以外にも、行事や部活動を通してひとつのものを創り上

げている達成感や仲間とつながる団結感を得られる。これらは学校という場だからこそのことだと思

う。なぜ学校でこのような体験ができるのかと考える。税金の存在は、やはり税金のおかげなのである。私が通うような公立の学校なら特にならぬ。日々の授業が先生を通して「みんなのお金」でなされ、校舎や机、椅子、黒板など必要な設備や物品の多くがみんなのお金によって買われ、私たちの

生活を支えている。しかしこれらは小学校・中学校の時からあたりまえのように近くにあって、いままでもあまり意識する機会がなかった。あらためて考えると、「ごく普通だった学校生活が少し特別感を持って。毎日

整った環境で過ごし、思いっきり学べるのは幸せなことなのだ。税金のおかげで学校生活を送れていることは、本当にあたりまえで意外に気づきにくいかもしれない。気づいているとしても、日ごろからほんのり意識している人は少ないと思われ。私は今回この文章を書いてみて、税金にお世話になってい

るもつと多くの学生に、普通の学校生活がどれだけの税金を支えられているかに気づいてほしいと思うようになった。学校教

育を通して、税金が自分たちのために使われていることを強く実感できる。一見税金というものは私たち高校生にとってそれほど身近な存在ではないように思えた。しかし驚くべきことに、私たちの日常の一番近くでいかにもあたりまえであるかのような顔をして、直接私たち自身のために役立ってくれていたのだ。税金が「みんなのお金」としてはたらくことができるのは、なんとなく嬉しい。

(原文のママ)

次回(18日号)は長岡高等学校 高田京輔さんの作品を掲載いたします。

★家庭でワクワク  
コンクール作品展  
示会期間11月18日(火)～21日(金)、午前8時～午後10時(21日は午後3時まで)、会場アオーレ長岡・ホワ

★創作のハイモ  
ニール「二人展」期間11月18日(火)～24日(祝)、午前10時～午後6時(24日は午後4時まで)、会場ギャラリー

★第60回  
学校入賞作品の展示、問い合わせは子ども家庭課  
Tel.39-23000  
期間11月23日(日)、午後5時～最終まで、芸術センター2階、本画の展示無料、問

# NPO法人 希望の会福祉

## 障がい者と その家族にのぞみを

障がい者通所施設を運営

NPO法人希望の会福祉(森田直子理事長)は精神障がい者を持つ人たちが住み慣れた地域で自分らしく生活するための支援活動を行って

いる。同会は長岡市精神障害者家族会が、仕事をしたいという精神障がい者の希望を実現するため1984年9月、東亜マツチ

望の家」は就労継続支援B型事業所(雇用契約を結ばない就労支援)として、「のぞみの家」は地域活動支援センターとして活動する。



創(長岡市)

# ながおか ガイド

長岡地域

イエ、【内容】市内小中学校入賞作品の展示、問い合わせは子ども家庭課  
Tel.39-23000

★第60回  
期間11月23日(日)、午後5時～最終まで、芸術センター2階、本画の展示無料、問